

2002～2003日本自動車殿堂・優秀造型者賞

トヨタ・イスト造型チーム

ニッサン・キューブ造型チーム

近年の開発傾向のひとつがプラットフォームの共用である。同じ車台を使用しながら、性格も用途も傾向も異なる車を開発することが、恒常的に行なわれる時代となった。例えばミニバン型のように、重心位置もパッケージも大きく異なる車も、セダンのコンポーネンツを活用する。国籍も外観も違う車のプラットフォームが実は同じもの、ということももう当たり前のこととなった。とすればこれからの時代の開発にスタイリングの占める比重は高い。車のスタイリングを評価するのは、最終的にはその車を使うユーザーである。しかしここで選ばれる「造型」とは、そのスタイリングにこめられた未来への提案性、これから他に及ぼすであろう影響、何よりも「独創」を貫いているかどうか、これらを選考の基準とした。

今期の日本の新型車（プランニューデザイン）は24銘柄（軽自動車を含み、大型バス／トラックを除く）が発表発売された。内訳はトヨタ9、ニッサン5、ホンダ3、マツダ2、スバル1、三菱1、ダイハツ2、スズキ1。このなかから、有力候補としてトヨタのイスト、カルディナ、プラド、サーフ、ホンダのアコード、モビリオ・スパイク、日産のマーチ、フェアレディZ 350、キューブ、マツダのアテンザ、デミオ、ダイハツ・コペンの計12車種が挙げられ、慎重審議の結果、トヨタ・イストとニッサン・キューブのデザイン・チームを推挙することになった。ノミネート12車のうち、カルディナ、イスト、キューブ、スパイクはいずれもデザインを全面に押し出した気合の入った製品であるが、プランニングにたいして造型が充分に応え、かつ上記の基準をより満たしているのは、イストとキューブであるとの結論に至った。

イストはSUVを思わせる逞しいフェンダーの処理、全体に骨太な外形、それに見合うタイヤサイズなどにより、クラスを超えたプレミアム感を具現化している。インテリアはモダンな家具のような水平垂直テーマにより新しい個性のライフスタイルを「アクティブ」「エレガンス」「インテリジェンス」の3つのキーワードとしてとらえ、これらを1台でまかなえるデザインのクルマに開花させている。

キューブは、“Magical Box”をキーワードに、角のとれた直方体をテーマとして室内空間の優れた外形を具体化している。最も目を奪われるのは左右非対称なリア・クォーターピラーの処理である。左後方視認性向上を追求し、かつルーフを支えるピラー2本を目立たないように組み込んで車体強度を確保して、スタイリングを見事にまとめている。



トヨタ・イスト



イストの中期開発時点のデジタル・レンダリング



ニッサン・キューブ



キューブの左側後部には細いピラーが2本隠されている